時事緑報
VOL.2

第19回
緑の少年団全国大会

全国の緑の少年団が一堂に会し、福島県で行われた
「第 19 回　緑の少年団全国大会」。
豊かな自然環境の中での交流活動や共同生活を通じて
参加した子供たちは相互の理解と連携を深め、
自然を愛し緑を守り育てる心を養う有意義な大会となりました。

子供同士の交流を通じ自然への理解を深める

平成二年から毎年開催され、十九回目を数える今年は「はぐくもう水と緑の　うつくしま」をテーマに、七月三十日～八月一日の二泊三日の日程で、福島県で開催されました。

大会初日の記念式典は、郡山市にある郡山ユラックス熱海 多目的ホールで行われ、県外からの参加者一六六名を含む合計一〇七一名の子供たちが集結。佐藤雄平福島県知事や全国緑の少年団連盟会長の谷福丸氏のほか、各市町村長なども集まり、盛大に幕を開けました。

井出道雄林野庁長官による「励ましの言葉」や、遠藤忠一福島県議会議長の「お祝いの言葉」、原正夫郡山市長の「歓迎のメッセージ」に続き、「みどりの奨励賞」の表彰式が行われました。この賞は「緑と水の森林基金」事業として緑化や森林に関する活動、地域における奉仕活動などで優れた活動を行った団体へ贈られ、今年は地元の大久田小学校緑の少年団をはじめ五つの少年団が受賞しました。

上：森林の中に入って自然観察
下：桧原湖での水質調査

二日目はいよいよ、中通り、浜通り、会津という各地域に分かれての交流活動です。交流活動には五八六名が参加しました。「森林と湖のつながり」「森林（自然）と川のつながり」「人間と森林（自然）のかかわり」「森林と海のつながり」など、エリアごとにテーマを設け、地域性や自然環境といった地域の特色・特徴を生かした活動が行われました。福島県を代表する桧原湖や阿武隈川の自然に直に触れたほか、森林文化の一つである和紙で作られる赤べこの絵付け、化石発掘体験、勾玉作り体験をする子供たちの顔は満面の笑み。楽しみながら人間と自然との関わりを学び、理解した様子でした。

上：野口英世記念館を見学
下：赤べこの絵付けは子供たちに人気でした

大会最終日は再び郡山ユラックス熱海にて、交流活動発表会が行われました。各班の充実した活動の様子が続々と報告されたのに加え、会の後半には猪苗代町に生まれ、世界的に有名な医学者となった野口英世博士の生い立ちも紹介されたのは、福島県ならではのアトラクションです。そして、次期開催県である京都府へ連盟旗が引き継がれ、「第十九回緑の少年団全国大会」は無事閉幕。この三日間で子供たちが経験し、学んだことは、必ずや次の活動に生かされることでしょう。